

平成30年度下半期

財政状況のあらまし

最終予算額 701億5,231万9千円

市では、皆さんから納めていただいた市税をはじめ、地方譲与税や国・都からの補助金および交付金、また、市債などの財源がどのように使われているか、市民の皆さんにその内容をお知らせするとともに、市政運営に一層のご理解とご協力をいただくため、毎年2回(上半期、下半期)定期的に財政状況を公表しています。

今回は、平成30年度下半期(平成30年10月1日～31年3月31日)の財政状況についてお知らせします。

☎財政課財政係 (☎042-387-9802)

未来をひらく 小金井を めざして

平成30年度予算については、市民目線の改革である「行政改革プラン2020」と次世代に責任を果たす「公共施設マネジメント」を執行し、「誇りのもてる小金井」、「住み続けたいと願われる小金井」、「市民力が結集された小金井」を創造する予算とし、市民満足度の一層の向上に取り組みできました。

しかしながら、国内景気の回復基調や担当部局の努力により市税収入が増となった一方で、地方消費税交付金は清算基準の見直し等の影響によ

り減収となり、依然として厳しい財政運営となりました。今後においても財政規律を緩めることなく、多様化・高度化する市民ニーズに的確に対応するため、より一層行財政改革を推進していきます。

なお、平成30年度の最終予算額は、一般会計、特別会計を合わせて70億5千231万9千円となり、前年同期と比べて、5・2%の増となりました。

一般会計

一般会計は、市税を主な財源とし、学校施設の改善や改修、道路の整備、緑地・公園用地の取得、集会施設などの建設や改修、教育や福祉、ごみ処理など市が行う事業の

特別会計

市には、特定の事業を行うため、一般会計とは別に、国民健康保険、下水道事業、介護保険、後期高齢者医療の4

つの特別会計があります。これらの特別会計の予算現額を前年同期と比較すると、国民健康保険が13・1%の減となった一方、下水道事業が3・9%、介護保険が3・9%、後期高齢者医療が2・8%それぞれ増加しました。(下表)

市債

公共施設の建設などを積極的に進めていくうえで必要な財源として、国や都、金融機関などから長期にわたって借り受ける財源を市債といいます。市債の現債高は、23億5千53万3千円となっています。これを目的別に見ると31・7%

市有財産

市が保有している財産には、庁舎や学校などの土地、建物、そのほか、物品や基金

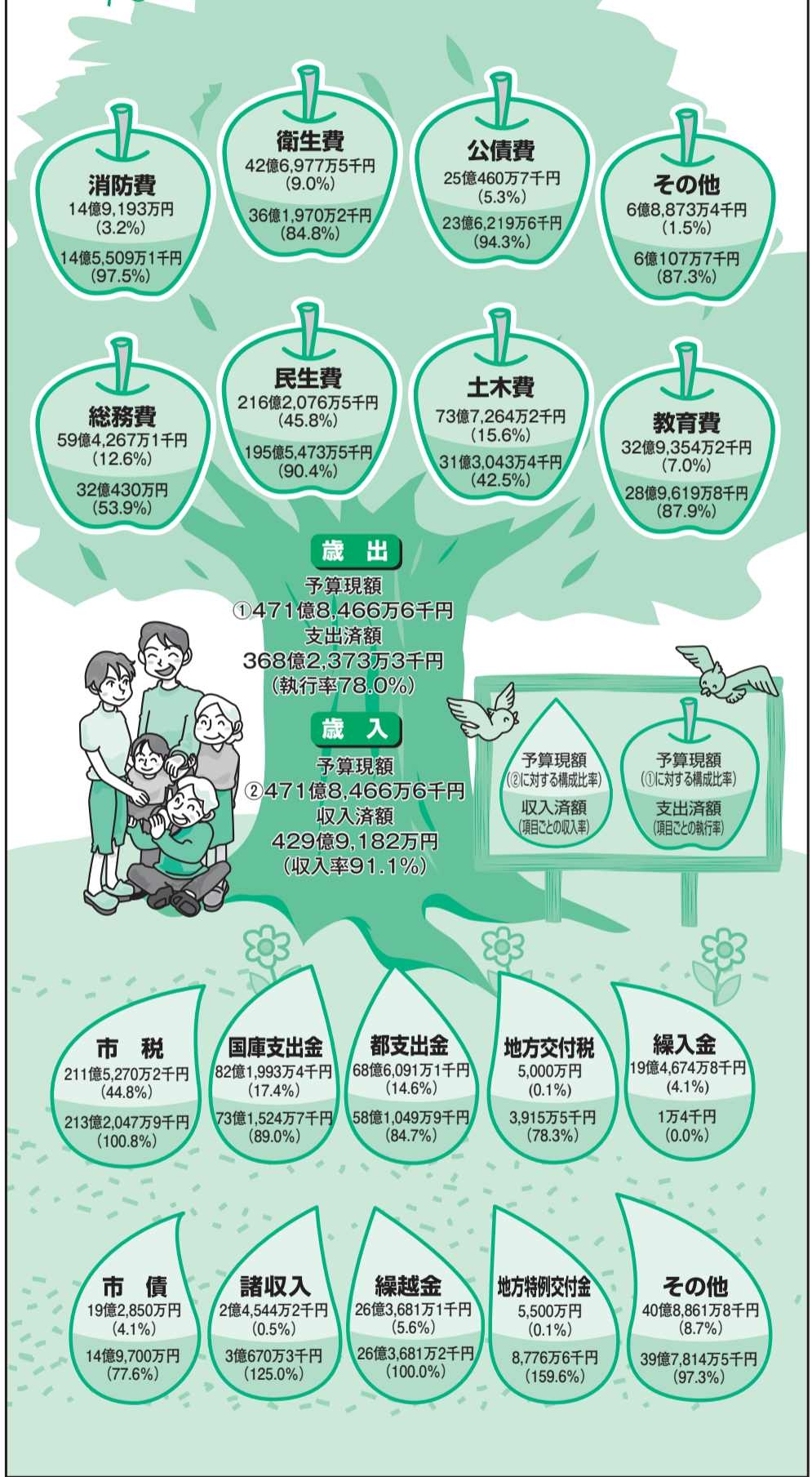
など多くの財産があります。(図3) 市有財産の現在高は、91億6千23万9千円となり、前年同期と比較すると3・7%の増となりました。

一時借入金

一時借入金は、歳出予算で定められた経費を支出するとき、不足する現金を補てんするため、短期的に借り入れる現金をいい、出納閉鎖日(5月31日)までに返済しなければならぬことになってい

ます。平成30年度下半期は、一時借入金はありません。

図1 一般会計の執行状況 平成31年3月31日現在



特別会計の執行状況 (平成31年3月31日現在)

区分	予算現額	収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険	107億4,058万円	101億5,367万5千円	94.5%	98億2,597万円	91.5%
下水道事業	14億7,409万5千円	13億8,616万3千円	94.0%	10億5,376万7千円	71.5%
介護保険	81億6,364万2千円	78億1,324万6千円	95.7%	71億6,967万9千円	87.8%
後期高齢者医療	25億8,933万6千円	25億3,385万3千円	97.9%	25億5,158万1千円	98.5%